

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 まなびパークたじみ 4F TEL 0572- 23 - 3455 FAX 0572- 26 - 8813

指導日誌より

= 多治見地区 =

子どもたちに出会えたのは、まなびパークで学習している高校生が主で、巡回途中では少なく、がっかりでした。(6/9 南姫 9)

東山団地内で、ヘルメットを被らないで自転車に乗っていた小学生男女児童各々 2名に注意しました。(6/13 共栄 3)

低学年下校時のため、子どもたちが遊ぶ姿はまだ見られませんでした。ヘルメット無しで自転車に乗っている小学生が 1人いたので、注意しました。(6/15 池田 6)

多くの児童が交流センターを利用しており、あいさつや 6時になったら帰宅するよう声かけを行なった。(6/17 根本 10)

多工生の下校時刻で多くの生徒に声かけできた。大きなあいさつの声が返ってきて気持ち良かった。児童館では館長さんと話したり、子どもたちが遊ぶ様子が見られた。(6/18 養正 7)

脇之島小校門にて下校時の子どもたちに声かけを行なった。皆元気で気持ちの良いあいさつを返してくれた。中学校は早帰りだった。(6/18 脇之島 12)

= 瑞浪地区 =

19時 30分頃、駅前のベンチで男子高校生 4人とズボンにペンキを付けた有職少年風の男子 2人が自転車を囲んで大声で話し騒いでいた。遅いので早く帰るように指導した。駐輪場から自転車で帰る高校生たちに、6月 1日から自転車の危険運転の規制が強化されたこととライトを点灯するよう指導した。(6/4 日吉)

瑞浪駅東の交差点で、高校生らしき自転車の男子が 2人乗りで横断していたので、「危ないぞ」と声をかけると「すみません」と答えて通り過ぎていった。(6/6 明世 H)

駅前のベンチに高校生が 2組すわっていたが、その他特に異常はなかった。(6/9 瑞浪 B)

コンビニやディスカウントストア周辺は大人は多いものの小中高生の姿は散見される状況でした。中学校は部活動や社会人体育、それに PTAの会合が重なって賑やかでした。(6/9 稲津 F)

帰宅中の高校生に声かけ。気持ちの良い返事が返ってきた。(6/11 土岐 D)

20時前後は今のところ、学生の姿を見かけることは少ないが、夏休みが近づき行動も変わってくるので心配だ。(6/12 釜戸 G)

6月 声かけ活動の結果

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
指導人数	5	5	8	18
声かけ人数	518	143	228	889
指導員参加者	73	35	41	149

あいさつは返してくれるが、声が小さい生徒はなかなか大きな声になってこない。服装や髪型からも生活が乱れている生徒はいないようです。もっと元気にあいさつを返してくれるように、これからも大きな声で声をかけていきたい。(6/17 陶 E)

高校生の姿はほとんど見られず、静かな町の様子でした。電車から降りてこられた方に声かけしました。(6/24 土岐 C)

= 土岐地区 =

泉が丘 3丁目公園内で中学生 2人がキャッチボールをしていた。その後、居酒屋で働いているという若者が合流し、あいさつをして 3人で遊んでいた。(6/3 泉 8)

下校途中の中学 1 年男子 4人に、気を付けて帰るように声かけ。(少し遅い時間だった。)(6/4 駄知 5)

校区内の公園を巡回しましたが、遊んでいる子は少なく、いても帰宅途中であった。ノーヘルで自転車に乗る小学生がいたので指導した。(6/9 土岐津 1)

駅前ロータリーのトイレ前で高校生や少年たちが座って話し込んでいた。うち 1 人の少年が喫煙をしていたが、我々を見て消した。口頭注意した。(6/10 特 A)

駅前のトイレ前に集まっていた男女の少年に、口頭で指導した。(6/17 特 B)

サークル K の前に中学生がいた。聞くと保護者の

迎えを待っているとのことで、素直に話に応じる。(6/18 妻木 3)

テスト前ということもあってか、パローや本屋さんでは小中学生を見かけることは少なかった。駅前では下校する高校生に声かけを行なった。(6/22 泉 7)

雨の日でしたので、子どもたちを見かけたのは平成公園だけでした。今の子どもたちは、周りの散らかっているゴミも気にならないようです。ゴミを片付けて真っ暗になる前に、帰宅するように指導しました。(6/26 下石 2)

まずすべて受け止めて

ひとこと

だから子供たちの発する言葉は、まずすべて受け止めてあげたいと思う。正しいか正しくないかは、あとで子供たち一人ひとりが自分たちの力で考えればいいことだ。

それがたとえ他人を傷つけるような言葉であっても、そのことも一緒に考えていけばいい。他人を傷つけたり、傷つけられたり、あるいは自分の思いが他人にまったく通じないという経験を通してのみ、子供たちはコミュニケーションの技術を学んでいくのだ。

平田オリザ『対話のレッスン』より

< センターから > 「新任指導員研修会」と「第 1 回運営協議会」を開催しました

6 月 14 日(日)、新任指導員研修会を多治見市のパロー文化センター(旧多治見市文化会館)で開催しました。お休みの日にもかかわらずご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。また、貴重な指導員としての体験や地域の学校・生徒たちへの取り組みをご紹介いただいた瑞浪地区副地区長の小栗計久様、ご講演ありがとうございました。子どもたちの育成支援は家庭、学校に加え地域の大人の働きかけが大切だと改めて確認できました。

7 月 3 日(金)には今年度の第 1 回運営協議会を開催しました。3 市の教育長を始め運営委員の皆さんやオブザーバーとして今回は 3 地区の地区長に参加していただき、26 年度の決算と活動報告を行いました。また、6 月までの今年度の活動結果についても報告しました。声かけ活動の指導状況については、今のところ昨年と大きな変化は見られません。駅前ではたむろする少年たちが少なくなったとの声もありますが、一方では「今の若者は、スマホや携帯で連絡を取り合っていて、目に付かないだけではないか。」「ネットに絡む非行被害は、増えている。」という心配の声もありました。詳細は後日ホームページに議事録が公開されます。